編　修　趣　意　書
（教育基本法との対照表）

※受理番号	学　校	教　科	種　目	学　年
104-4	高等学校	農業	畜産	

※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教　科　書　名
7 実教	農業 718	畜産

１．編修の基本方針

教育基本法第二条の各号の目標を達成するため，それぞれ以下の点を基本方針とし，本書を編修した。

教育基本法第二条	方針
第１号 幅広い知識と教養を身に付け，真理を求める態度を養い，豊かな情操と道徳心を培うとともに，健やかな身体を養うこと。	・高校生による畜産関連の取り組みについて紹介することで，生徒が自ら学習に取り組む意欲を養うよう心がけた。
第２号 個人の価値を尊重して，その能力を伸ばし，創造性を培い，自主及び自律の精神を養うとともに，職業及び生活との関連を重視し，勤労を重んずる態度を養うこと。	・職業としての農業を意識できるよう，先進的な取り組みを行っている農家の事例を取り上げた。
第３号 正義と責任，男女の平等，自他の敬愛と協力を重んずるとともに，公共の精神に基づき，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養うこと。	・畜産に携わる上で重要な法律について取り上げ，法令遵守の重要性について理解を深められるような記述を心がけた。
第４号 生命を尊び，自然を大切にし，環境の保全に寄与する態度を養うこと。	・畜産は生命と密接に結びついた産業であることが理解できるような記述を心がけた。
第５号 伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	・畜産の歴史的な内容について，文章のみでなく，当時の図画などを紹介し，伝統や文化を尊重する態度を養うことができるよう心がけた。 ・海外へも目を向けることができるよう，海外の畜産の状況や取り組みなどを取り上げた。

２．対照表

●全体的な特色

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
本文中の重要用語	・　学習上で重要な用語についてはゴシック体で強調し，あわせて丁寧な説明を記述することで，幅広い知識と教養が定着するよう配慮した(第 1 号)。	p.20，23，32，75 など
目標	・　各節の初めに目標を設け，これから学ぶ内容を簡潔に示すことで，学習内容に関する興味・関心を喚起し，自ら学ぼうとする態度を養えるよう配慮した(第２号)。	p.72，112，156，200 など
観察	・　家畜の観察などを通じて学習した内容を再確認することにより，理解を深めやすくなるよう配慮した(第 4 号)。	p.110，153，198，244
実習	・　互いに協力して作業を行い，正義と責任，男女の平等，自他の敬愛と協力を重んずるとともに，公共の精神に基づき，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養えるよう配慮した(第 3 号)。	p.109，110，111，154，197，242，243
演習	・　演習を通じて家畜に関する実践的な知識の理解を深め，幅広い知識と教養を身に付け，真理を求める態度を養えるよう配慮した(第 1 号)。	p.111.155，198～199
やってみよう	・　簡単に取り組むことのできる課題を適宜配置し，生徒の興味・関心を喚起し，主体的な学習に取り組めるように工夫した（第 2 号）。	p.48，52，89，129，132 など
調べてみよう	・　生徒の家畜に対する興味・関心を喚起する調べ学習を適宜配置し，主体的に学習に取り組めるように工夫した（第 2 号）。	p.20，22，29，43，49 など
考えてみよう	・　家畜に関連する理解を深めるための簡単な考察課題を配置し，自ら学ぼうとする態度，真理を求める態度を養えるよう配慮した(第 1 号)。	p.58，74，77 など
話し合ってみよう	・　一つのテーマについてグループで話し合うことにより，自他の敬愛と協力を重んじる態度を養えるようにした（第 3 号）。	p.24，53，138 など

●各章における特色

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
序章 はじめに	・ これから学習する「畜産」の社会的な役割を示すことで，創造性を培い，自主及び自立の精神を養うようにした(第 2 号)。 ・ 男女の平等を重んずる態度を養えるよう，イラストや写真に男女がともに掲載されるよう配慮した(第 3 号)。	p. 6 p. 8～9
第 1 章 日本の畜産の役割と特徴	・ 家畜化と日本の畜産の歴史について説明することで，伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるよう配慮した(第 5 号)。 ・ 家畜が食料の供給源として欠かせないものであることに触れ，産業としての畜産業の大切さに改めて気づくことができるよう配慮した（第 2 号）。 ・ 畜産の抱える課題について触れることで，真理を求める態度を養うとともに，これからの畜産業の在り方を考えることができるよう工夫をした（第 1 号，4 号）。	p. 12～15 p. 20～23 p. 24
第 2 章 動物の生理・生態と飼育環境	・ 飼育環境の制御の基礎となる動物の発育や体内の生理作用を詳細に説明することで，真理を求める態度を養えるようにした(第 1 号)。 ・ アニマルウェルフェアの考え方およびアニマルウェルフェアに配慮した飼養管理技術を扱うことによって，家畜も生き物であり，その生命を尊ぶ態度を養えるようにした（第 1 号，4 号）。	p. 32～45 p. 46～50
第 3 章 家畜と飼料	・ 飼料の特性とその給与方法について丁寧に記述し，幅広い知識と教養を身に付けられるように配慮した(第 1 号)。 ・ 食品循環資源飼料とエコフィードの取り組みを紹介することで，自然を大切にし，環境の保全に寄与する態度を養えるように配慮した。	p. 63～65 p. 66
第 4 章 家畜の飼育	・ ニワトリ，ブタ，乳牛，肉牛の生理や生態，飼育方法について丁寧に記述し，幅広い知識と教養を身に付け，真理を求める態度を養えるよう配慮した(第 1 号)。 ・ 各家畜について，アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理技術を扱うことによって，家畜も生き物であり，その生命を尊ぶ態度を養えるようにした（第 1 号，4 号）。 ・ 家畜伝染病予防法や飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律などを取り上げ，社会的な責任について考えるための契機となるよう配慮した（第 3 号）。	p. 72～263 p. 86，127，172，213 p. 103，104，148，149，190，229～234

第５章 畜産と経営	・　畜産経営をとりまく国際環境について取り上げ，伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるように配慮した(第５号)。	p.272～273
第６章 畜産経営の実践	・　エコフィードを活用した畜産物の開発の説明を通して，環境の保全に寄与する態度を養えるよう配慮した(第４号)。 ・　高校生による実践例を通じて，個人の価値を尊重して，その能力を伸ばし，創造性を培い，自主及び自律の精神を養えるよう配慮した(第２号)。 ・　社会の発展に寄与する態度を養うため，実際に社会で応用されている例を示した(第３号)。	p.281 p.280～283 p.284～288

３．上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

学校教育法第五十一条の各目標を達成するため，以下の点に留意し，本書を編修した。

一 義務教育として行われる普通教育の成果を更に発展拡充させて，豊かな人間性，創造性及び健やかな身体を養い，国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと。	・人間の生活が自然環境やその制御によって飼育されたさまざまな畜産物に支えられていることを改めて理解し，アニマルウェルフェアの観点も取り入れた飼育技術を紹介することで，豊かな人間性や創造性を養えるように配慮した。
二 社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき，個性に応じて将来の進路を決定させ，一般的な教養を高め，専門的な知識，技術及び技能を習得させること。	・畜産業によって人間生活が支えられていることや畜産業の今後の展望や課題を示すことなどによって，職業の一つとして農業を考えられるような記述を取り入れた。 ・各家畜について，詳細な解説によって専門的な知識や技術の定着を図り，さらに人工授精の実習や飼育計画立案の演習を通して合理的に解決する力を養えるように配慮した。
三 個性の確立に努めるとともに，社会について，広く深い理解と健全な批判力を養い，社会の発展に寄与する態度を養うこと。	・学校や農家での実践例を通して，自身の暮らす地域ならではの畜産物の応用や環境保全の方法について学習することで，地域社会の発展に寄与する態度を養えるよう配慮した。

編　修　趣　意　書
（学習指導要領との対照表，配当授業時数表）

※受理番号	学　校	教　科	種　目	学　年
104-4	高等学校	農業	畜産	

※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教　科　書　名
7 実教	農業 718	畜産

１．編修上特に意を用いた点や特色

「畜産」を学ぶにあたって，基礎的・基本的な知識と技術を修得することにより，本科目への興味・関心を喚起し，学習した知識と技術を家畜の飼育，経営の実践に役立てられるようにした。

●全体的な配慮と特色

1. 家畜の飼養と経営に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得を通して，畜産への興味・関心を喚起できる内容とした。
2. 実習・演習については，全国の各学校の施設・設備の状況を考慮し，実施が可能な畜種やテーマを選択し，取り上げた。
3. 本文の記述にあたっては，文章をできるだけ短くし，箇条書きを用いるなど，簡潔・平易な表現を心掛けた。また，重要用語はゴシックにするなど，生徒が読みやすく，理解しやすいよう心掛けた。
4. 各節の初めに目標を設け，これから学ぶ内容などを簡潔に示し，生徒の興味・関心を喚起するように努めた。
5. 飼育技術について正確な理解を図るために，イラストを含む図表や写真を多く用いて解説を施した。また原則として下段に図表や写真，上段を本文とする紙面構成として，視覚的な理解を促すように工夫した。
6. 本文中にはできるだけ対応する図・表番号を付し，本文と図・表の関連を図った。
7. 本文相互間の関連が明らかになるよう，参照ページを付して学習の便を図った。
8. 産業としての畜産という側面だけでなく，畜産と人間や環境との関わりを学ぶことを通じて，畜産のもつさまざまな役割を理解できるように配慮した

●各章の編修方針

⑴　序章では，畜産におけるプロジェクト学習の進め方を進め方の例を用いて丁寧に記述することで，科目に合わせた進め方が習得できるよう配慮した。

⑵　第 1 章では，畜産に関する日本および世界の状況について，具体的なデータを示しながら，わかりやすく解説した。また，畜産のもつさまざまな役割について取り上げ，畜産物生産以外にも人間や環境との関わりがあることを理解できるような記述とした。

⑶　第 2 章では，おもに教科書で取り上げる家畜の基本的な生理や生態について，基本的な事柄を取り扱った。また，家畜排せつ物の処理と利用について具体的な処理方法や利用方法を例示しながら，理解しやすい記述とした。近年国際的に重視されるようになってきたア

ニマルウェルフェアについてその考え方や飼養管理の例，国内外の対応についてわかりやすく解説し，飼養管理技術の選択肢として考えられるようにした。

⑷　第 3 章では，家畜の飼養に重要となる飼料とその栄養素，消化・吸収のしくみについて，基本をおさえながら解説した。また，おもな飼料作物について特徴などをわかりやすく記述した。

⑸　第 4 章では，具体的な家畜について取り上げ，飼養管理の方法から畜産物の出荷まで，その家畜の特徴についてより詳しく学習できるように努めた。また，おもな家畜を扱った節の最後には，実習・実験・観察を紹介し，生徒が主体的に家畜に関わることができるよう工夫した。さらに，近年問題となっている鳥獣害問題についても簡単に取り上げ，理解を深められるよう配慮した。

⑹　第 5 章では，まず基本的な経営学の内容を取り上げ，畜産の経営改善について考えるための基礎を培えるようにした。畜産経営を取り巻く状況や，技術成績と価格の関係性，経営の課題や改善のための方策などを取り上げ，畜産経営のための指針とした。

⑺　第 6 章では，高校生および農家の実践的な事例について取り上げた。高校生による取り組みを紹介することで，生徒が自主的に取り組む意欲を養えるよう心がけた。また，先進的な取り組みを行っている農家の事例を取り上げることで，職業としての農業を意識できるよう配慮した。

２．対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容	箇所	配当時間
序章 はじめに	1節　畜産を学ぶにあたって	(1)　ア，イ	p.6	1
	2節　畜産とプロジェクト学習	(1)　ア，イ	p.7-10	1
第1章 日本の畜産の特徴と役割	1節　日本の畜産の特徴	(2)ア	p.12-15	3
	2節　日本における畜産物の需給の動向	(2)ウ	p.16-19	3
	3節　畜産の役割と課題	(2)ア，(5)エ	p.20-26	3
	4節　科学の発展と畜産への活用	(2)ウ	p.27-30	3
第２章 動物の生理・生態と飼育環境	1節　動物の生理・生態	(3)ア，イ	p.32-40	4
	2節　飼育環境の調節	(3)ウ，(5)イ，エ	p.41-51	6
	3節　家畜排せつ物の処理と利用	(5)エ	p.52-56	4
第３章 家畜と飼料	1節　家畜の栄養と栄養素	(4)オ	p.58-62	5
	2節　飼料の特性と給与	(4)オ	p.63-70	5
第４章 家畜の飼育	1節　養鶏	(4)ア，イ，ウ，エ，オ，カ，キ，ク，(5)ア	p.72-111	50～100
	2節　養豚		p.112-155	50～100
	3節　酪農		p.156-199	50～100
	4節　肉牛の飼育		p.200-245	50～100
	5節　そのほかの家畜	(4)ア	p.246-263	50～100
	6節　野生生物への対応	(2)ア	p.264-266	4
第５章 畜産と経営	1節　畜産経営の基礎	(2)イ，(5)ア，ウ	p.268-273	4
	2節　畜産経営の改善	(5)ア，ウ	p.274-278	4
第６章 畜産経営の実践	1節　高校生による実践事例	(6)カ	p.280-283	5
	2節　農家による実践事例		p.284-288	5
			計	280

注1.配当授業時数は，8単位を想定している。
注2.4章1～5節は，総時数が合計で220時間となるように設定する。